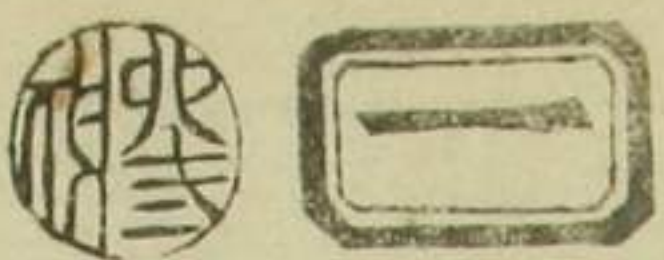
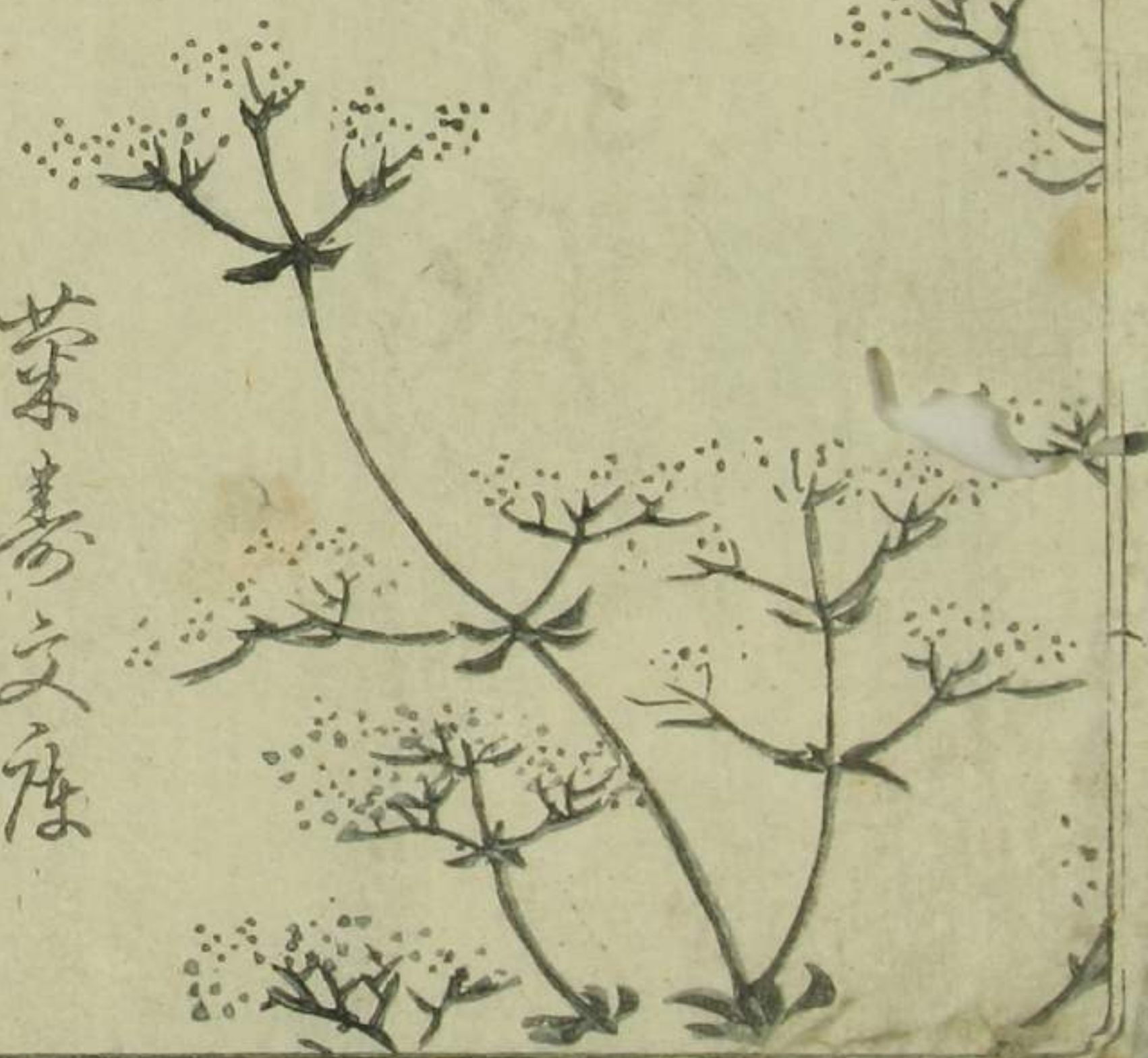


へ13
3223
36

ふ
ぬ
ふ
五
ん
下

茶素文庫

炭丸



疑人なるも念佛されば往生するに法然極樂安賣の
相場を立られき外見むりの親孝行も不孝と云ふもの
勝るべきは虚と實は姑く論せし童穉達ゆゑ孝子の
話を周諄も聴せしむる俗書されど博多細傳實録と
云冊子の中み吉村某といふ武士筑紫浪津島の姫神は
神感を蒙りて更を記せり明和中の事なりしと云ふ
あり係縁と末に到りて用ひべき腹稿不図なりこれ口画の
案にも整へるなり幸と極野夫の画接されども
孝行を勧むる老婆心切なる哉

天鳴中津宮



沖津島

慶應三卯秋

柳亭種彦記



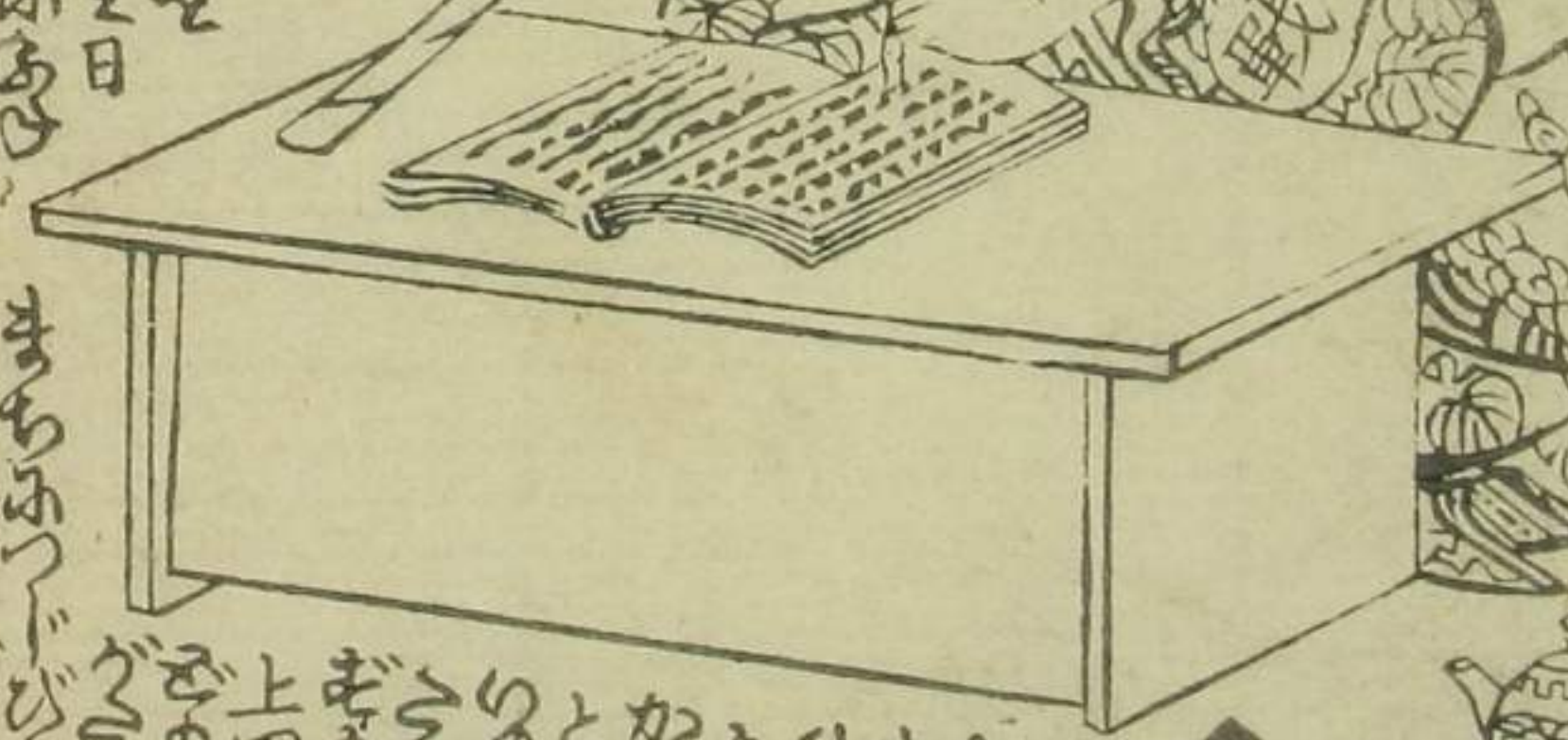


○この世はかたがたに
 世の中はこれと云ふを
 此の世の中はかたがたに
 あつたはこれと云ふを
 まゝの世の中はかたがたに



△この世はかたがたに
 △この世はかたがたに
 △この世はかたがたに
 △この世はかたがたに
 △この世はかたがたに

△この世はかたがたに
 △この世はかたがたに
 △この世はかたがたに
 △この世はかたがたに
 △この世はかたがたに



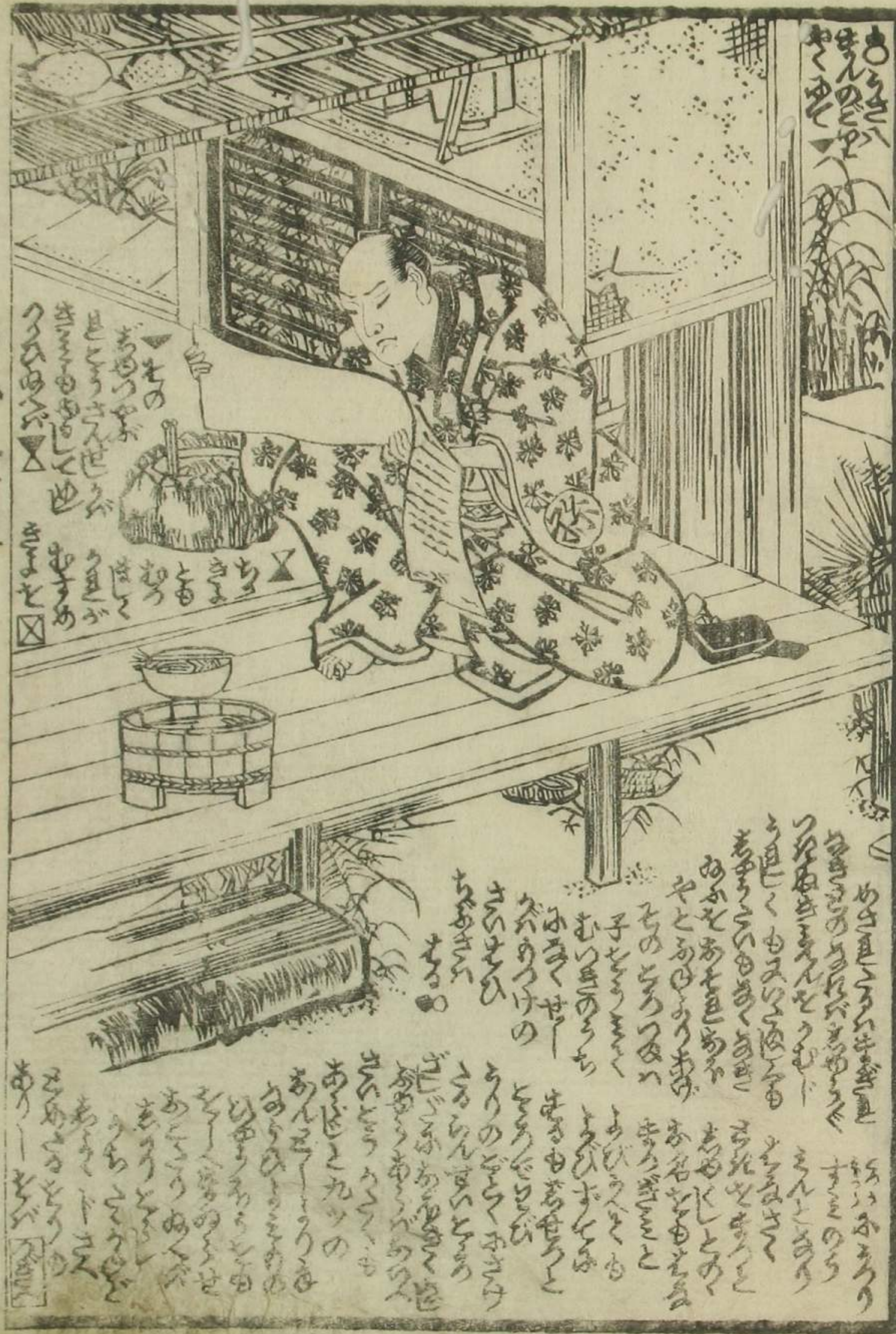
△この世はかたがたに
 △この世はかたがたに
 △この世はかたがたに
 △この世はかたがたに
 △この世はかたがたに

△この世はかたがたに
 △この世はかたがたに
 △この世はかたがたに
 △この世はかたがたに
 △この世はかたがたに



△この世はかたがたに
 △この世はかたがたに
 △この世はかたがたに
 △この世はかたがたに
 △この世はかたがたに

[illegible]



あつち
まんの
わく

あつち
まんの
わく

あつち
まんの
わく

あつち
まんの
わく



あつち
まんの
わく

あつち
まんの
わく

あつち
まんの
わく

あつち
まんの
わく

あつち
まんの
わく

日くあんこすれあをい
 りまそごまきふのり
 日くあをさぬふ
 あやかり人とすあ
 まもひとの
 ふがりとゆめさうぶ
 こころとまろむ
 こあらんせーか
 あふのけのようこあ
 まさる十ヲあゆ
 こで五丁十丁
 れちあまきさ人
 おもちありーん
 かんあんせざら
 わのなろうき
 まるおあ十一の
 まるさめどちの
 さぐまうと
 ひふ

[illegible][illegible]

種彦作芳幾畫



ふしぬい彈

五拾四編ヨ柳亭種彦作
六十編マテ一惠齋芳幾重

兩面織花田物語

初編ヨ同
五編迄同
近刻

重作

假名讀八犬傳

三十一編ヨ假名垣魯文録
三十五編マテ朝霞樓芳幾重

古今似顔大全

故豊國公羽筆
大錦百三番續

太平記英勇傳

中錦山々亭有人記
百番續惠齋芳幾圖



種彦作

芳

幾

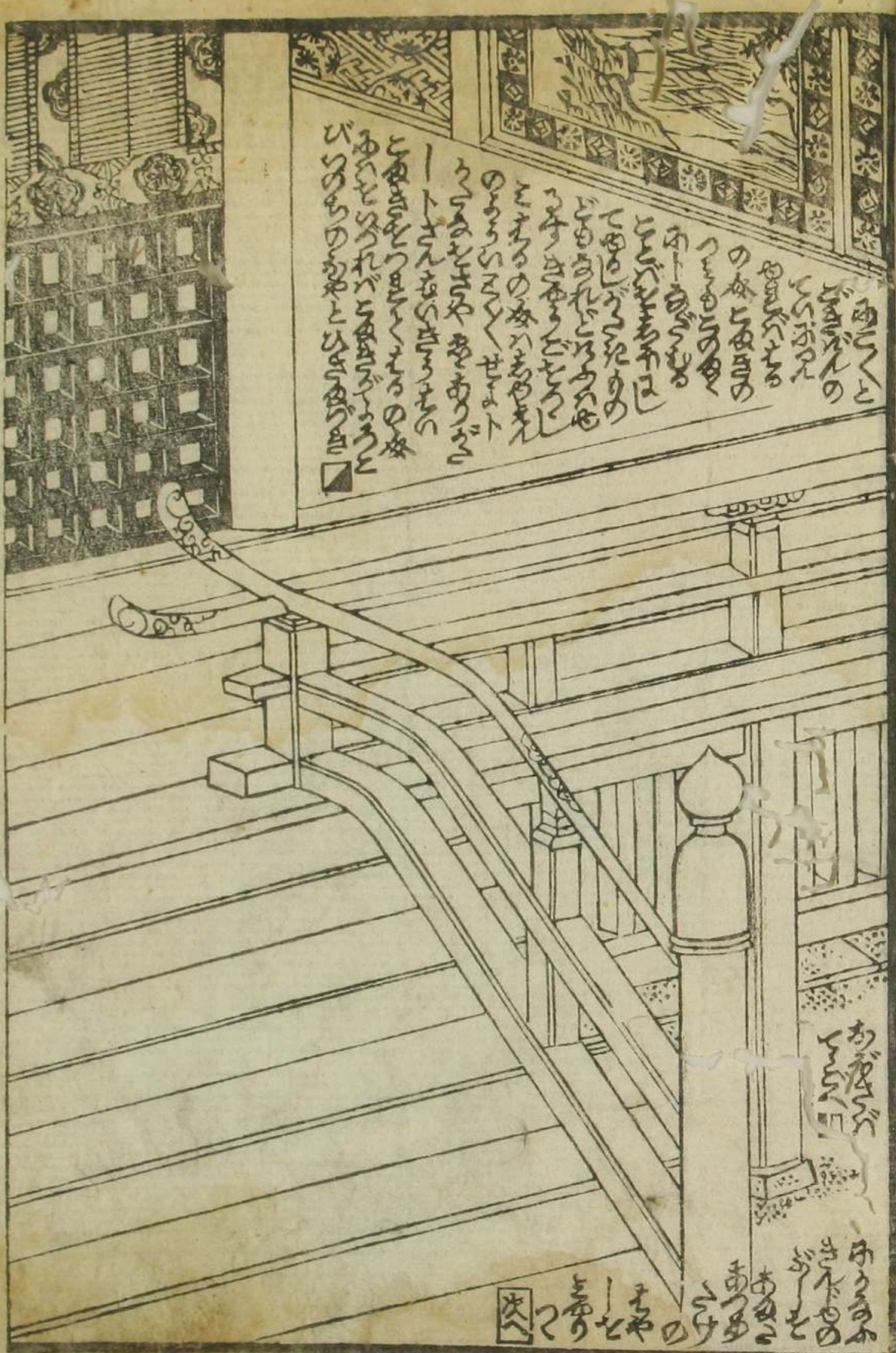
重

五拾五編下





天のあまの
 いちぢやう
 と
 ひめ
 の
 いのち



種彥作芳幾面

[illegible]

交來書

朝霞樓芳幾画

浪輝黃金鯨

三編讀切

瀨山惠梅松假河
 亭齋素湖垣名竹
 如芳玄交魯其
 人幾魚來文水
 合

名譽の孝女ハ
村豆於市

一対男の縁ふ因て戯作劇場を一樣ふ竹林あふぬ七軒人が一回五葉を持きりの
 合作全備の三編冊 初編 初丁が五丁め迄 其水作同 六丁め迄 有人作同 七丁め迄 交來作

同十六め
如皋作二編
初十魯文作同十六め
芳樂作同十三め
其水同十六め
有人
三編
初十子魚作同十六め
如皋同十五め
魯文同十六め
其水如斯其のよく持場もちば茂
定め一旦いちど筆力ふでぢからを法はりし写當藏板あてくらひのあゝぬ以同様御高評ごうこうへいを希ねがふ

地衣草紙四卷

廣德堂藥房

江戶深川佐賀町

